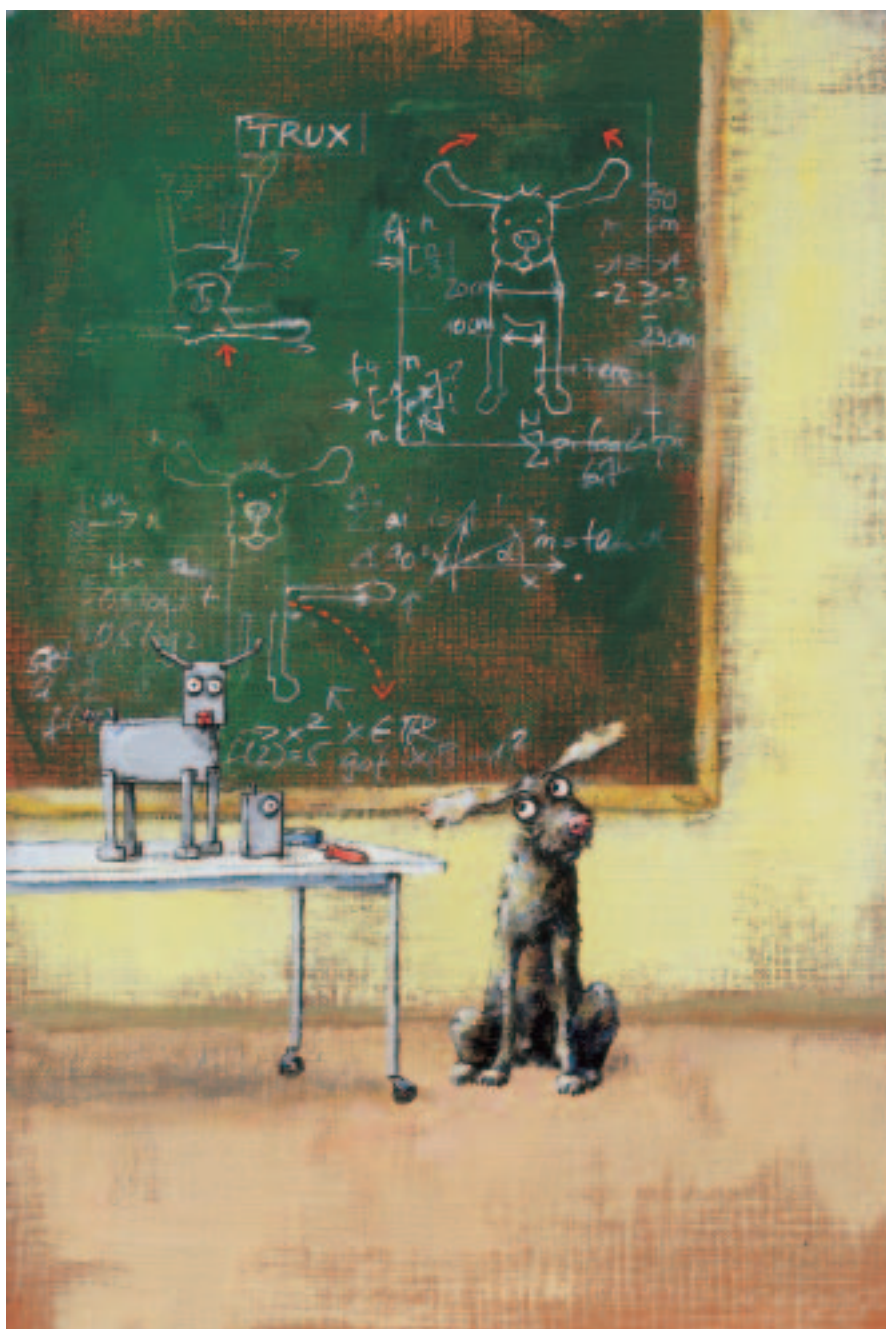


石川県七尾美術館だより

平成16年10月1日発行
編集・発行 石川県七尾美術館

第39号(秋号)



ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM

「2004イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」より

「たれ耳くん」

ニーナ・シュプランゲル（ドイツ）

展覧会紹介

平成16年10月31日(日)

平成17年2月20日(日)

休館日については裏表紙をご覧ください

「2004 イタリア・ボローニャ

国際絵本原画展」

11月5日(金)～12月5日(日)

【会期中無休】

◆第一・二・三展示室

この展覧会は毎年四月にイタリアの古都ボローニャ市で行われる「児童図書専門見本市」の中で開催される、世界的な絵本原画の公募展です。その歴史も古く、ボローニャ市での本展は昭和三十三年に始まり、日本では昭和五十三年に西宮市大谷記念美術館で初めて紹介されました。

五枚一組であれば誰でも応募できることから、絵本作家やイラストレーターたちの登竜門として世界的に注目されており、作品の偏りを防ぐために毎年メンバーを変えて行われる厳選な審査で選び出された作品群は、芸術的とも言えるでしょう。



「だいすきなもの！」ハシ ユカコ (日本)



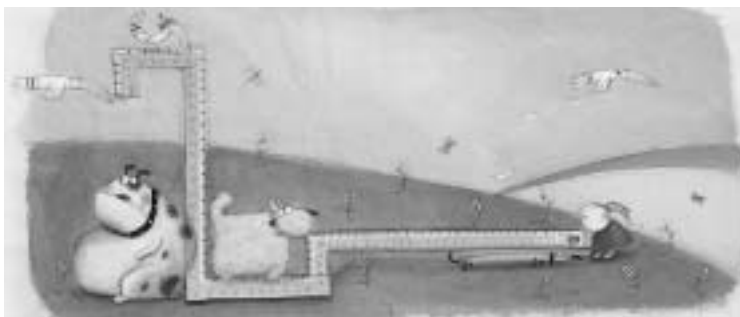
「図録表紙」出久根 育 (日本)

今年も世界各地から二千七百人以上の応募があり、その中からフィクション部門の八十八作家と、ノンフィクション部門の十二作家をあわせて百人、四百九十八点を一堂に展覧します。

また、毎年恒例の特別展示では、二〇〇三年のBIB(ブラティスラヴァ世界絵本原画展)でグランプリを受賞したブラハ在住の日本人、出久根育の版画、油彩画、図録表紙原画など二十八点も紹介します。

出久根氏は一九九八年のボローニャ展にも入選

され、また、ヨーロッパではグリム童話への深い理解やその表現力が高い評価を得ており、まさに国内外で活躍するイラストレーターと言えます。さて、この展覧会は毎年国内四〜五会場を巡回していますが、日本のイラストレーターたちの応募も年々増加し、今年は五百四十三人が応募、十六人が入選しました。七回目にして初入選を果たした人、ここ数年入選している常連作家、初めての出品で入選した人など、色々なドラマがありました。



「お気に入り」アンナ・ラウラ・カントーネ (イタリア)

これら入選者の多くは、「学生の頃、ボローニャ展を見に来ていたので、自分が入選したというのが驚きです。」と語っています。ですから、現在見に来ている子どもたちや学生の中にも、未来の入選者やイラストレーターたちがきっといるに

違いありません。世界中の絵本原画を、これだけ一堂に鑑賞できる機会はその多くありません。是非この機会にゆつくりとお楽しみください！



「小さなめすガエル」
フィリップ・ジオルダーノ（イタリア）

【会期中のお楽しみ情報】

- ★恒例の「子どもワークショップ」や「子ども映画上映会」も開催します。詳しくは下記をご覧ください。
- ★今年四月、イタリアのポローニャ市で開催された本展の様子や、入選作家たちのインタビュを収録したビデオをご覧ください。
- ★出品作品や出品作家の絵本、「未来に残す絵本一〇〇選」に選ばれた絵本なども自由にご覧いただけます。
- ★かわいい絵ハガキ十六種類（一枚五十円）と、図録も販売しますのでお楽しみに！

◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	700円	3500円	6000円
		3000円	

※中学生以下無料・団体は二十名以上です。

ポローニャ展特別企画

●子どもワークショップ●【参加費無料】

「かんたん絵本を作ろうよー！」

いらなくなったポスターやカレンダーなどの裏面を利用して作る8ページの冊子に、ストーリーを考え、自由にページを飾りつけてオリジナル絵本を作ります。



日時 ポローニャ展会期中毎週土・日曜日
午後2時～4時

対象 4歳～小学生（未就学児は保護者同伴）

定員 各日10名（要申込）

持ち物 不要のポスターやカレンダーなど

募集 10月20日（水）より電話受付開始

協力 もこもこ文庫&もこもこの会

●子ども映画上映会●【入場無料】

日時 11月13・27日 午後1時～

会場 アートホール

タイトル 「黄金のカモシカ」（30分）

インドの古い伝説をもとにした、金のカモシカを狙う欲張りな王様と、カモシカを助けようとする優しい少年の物語。



「夢ものがたり」（20分）

古典落語の「浜芝」を素材に江戸の裏長屋で魚屋を営む夫婦が、拾った大金を通して起こす色々なエピソードを映画化。

「双子の星」（27分）

双子の星チュンセとポウセの、優しいメルヘンの世界。原作：宮沢賢治

豪華三本立!!

「新市誕生記念 七尾市美術展覧会」

10月31日（日）～11月3日（水・祝）
但し、最終日は午後4時まで

◆第一・二・三展示室

五十回の歴史を持つ公募展「七尾市美術展覧会」において、過去五年間に厳しい審査を経て入賞した六部門（日本画・洋画・彫刻・工芸・書・写真）の作家に出品を依頼し、無鑑査作家の作品をあわせて展示します。



昨年の展覧会の様子

入場料 無料

主催 新市誕生記念七尾市美術展覧会実行委員会
共催 七尾市・七尾市教育委員会・財団法人七尾美術館・七尾美術作家協会

協賛 七尾市文化協会

後援 北國新聞社・ラジオななお
連絡先 新市誕生記念七尾市美術展覧会実行委員会

☎〇七六七（五三）〇五九六

「冬季・所蔵品展」

〔織部の意匠〕
〔現代絵画・風景を楽しむ〕
12月10日(金)～平成17年2月20日(日)

◆第一・二展示室

当館は平成七年の開館以来、平成十七年を以てちょうど開館十周年になります。その間、現在能登地区で唯一の総合美術館として日本画・洋画・工芸・書・彫刻・写真など様々なジャンルの作品を、長谷川等伯作品を始めとする古美術作品から現在活躍中の現代作家作品まで、幅広く収集してきました。

現在当館には「池田コレクション」と「能登ゆかりの作家作品」に大別される合計四六七点の作品が所蔵されています。

これらの所蔵作品は年に数回開催される「所蔵品展」で定期的に展示していますが、今回は次の二テーマで工芸品・絵画を紹介します。



〔江戸前期〕
〔織部舟人物図茶碗〕



〔江戸前期〕
〔織部梅画角台付向附〕

テーマ① 「織部の意匠」

織部焼は桃山時代から江戸時代にかけて美濃国(現在の岐阜県美濃地方)で制作された陶器で、同じく美濃製の黄瀬戸、瀬戸黒、志野と併せて「美濃焼」と総称されています。とてもバラエティ豊かな作風が織部焼の特徴で、変化に富んだ形状や幾何学的な抽象文様など、現代の我々が見てもとても斬新な印象を受けます。

本テーマでは「池田コレクション」より、織部焼の作品を向附・鉢・茶碗など茶道美術品を中心に紹介します。



〔松・灼照〕 井田重男

テーマ② 「現代絵画・風景を楽しむ」

「風景画」は風景を主な表現対象とした絵画をいいます。中国では古く六朝時代には既に山水図が描かれ、隋唐時代には日本へも伝来、士大夫や禅僧などの教養階級に好まれました。やがて一般にも普及し、現在は親しみやすい身近な画題として様々な風景が広く描かれています。

本テーマでは当館所蔵品、寄託品より日本画、洋画などを通して表現された、色々な風景を紹介いたします。

◇観覧料

	一般	個人	団体
大高生	350円	280円	220円

※中学生以下無料、団体は二十名以上です。

市民ギャラリー 展覧会案内

第61回 北國写真展七尾展

12月10日(金)～12日(日)
但し、最終日は午後4時まで

北陸最古の歴史と伝統を誇る北國写真展です。北陸三県の写真愛好家の皆さんから応募された作品から、全入賞作品及び入選・無鑑査等の作品を抜粋して展示します。ご鑑賞ください。

入場料 無料

主催 北國写真連盟・北國新聞社

後援 石川県・北陸三県カメラ商組合・ラジオななほ

連絡先 中山吉郎

☎〇七六七(五七) 一三四八

第13回「写団のと」会員展&西湊十八景展

12月17日(金)～19日(日)

但し、最終日は午後4時30分まで

写真家のグループ「写団のと」の会員による作品発表展です。又、西湊町会連合会による「西湊十八景」も併せて展示しますので是非ご覧下さい。

入場料 無料

主催 写団のと・七尾市西湊町会連合会

後援 七尾市文化協会・七尾美術作家協会

連絡先 橋本義則

☎〇七六七(五三) 三〇一一

アートホール催し物案内

リトル・ウイングコンサート

10月10日(日) 開演 午後1時

ピアノ・エレクトーンソロをはじめ、連弾や生徒全員による合唱があります。一生懸命練習をしてきた子供達の演奏と歌声を是非皆さん聞きに来て下さい。

入場料 無料

主催 リトル・ウイング

後援 (株)開進堂楽器

連絡先 前田ゆかり

☎〇七六七(五二) 九九四三

地球交響曲 第五番上映会

10月23日(土) 開演 午後6時

地球交響曲は、「全ての存在は繋がっている」をテーマにした映画です。地球交響曲の魂が第一〜第四番と順調に成長し、今まさに新しく生まれ変わろうとしています。ぜひ、地球交響曲の世界へ。

入場料 前売り一、〇〇〇円 当日一、五〇〇円

主催 能登ラブレジェンド実行委員会

連絡先 ガイヤ担当 中谷内

☎〇九〇(二二二七) 二八九九

第6回アルブルクラシックコンサート

11月7日(日) 開演 午後2時

ピアノによるコンサートで、後半に三大Bと呼ばれる、バッハ、ベートーヴェン、ブラームスの曲を取り上げました。他にショパンや、連弾も演奏します。どうぞ、お気軽にご来場下さい。

入場料 大人一、〇〇〇円 小学生以下七〇〇円
Arbre (アルブル)

後援 洗足学園魚津短期大学同窓会・北國新聞

社・(株)河合楽器製作所・ラジオななお

連絡先 谷 栄美

☎〇七六七(五三) 一一二四

千の星千の愛〜こころの宇宙が見えますか?〜

素敵な素敵な音楽会&湯川れい子講演会

11月20日(土) 開演 午後6時30分

第一部にギターリスト&シンガールのTCHIROとキーボードボーカルのMAYUMIによる演奏と歌で、故福澤もろ氏の制作した能登のラブソングや二〇〇五年愛・地球博テーマソング等：感動のステージを…。第二部は、音楽評論家の湯川れい子氏をお招きし、心暖まる素敵なひとときをお届けします。

入場料 二、五〇〇円

主催 能登ラブレジェンド実行委員会

後援 七尾市・七尾市教育委員会

連絡先 上木玲子

☎〇七六七(五三) 〇三〇三

dolceピアノコンサート

11月21日(日) 開演 午後1時30分

子供から大人までのピアノ発表会です。三人の講師によるソロや六手連弾もあります。ステキな絵と花に囲まれた、きれいなステージでの演奏をお楽しみに、どなたでも御来場下さい。

入場料 無料

主催 ピアノグループ dolce

後援 (株)河合楽器製作所

連絡先 井藤真理

☎〇七六七(五八) 一三五五

中條久美子・酒谷広重門下生ピアノ発表会

12月5日(日) 開演 午前10時

年に一回開かれるピアノ発表会です。ピアノソロ、連弾、講師による演奏、その他楽しい事?が盛りだくさんです。ワクワクドキドキあり、うっとりあり、どうぞお楽しみ下さい。

入場料 無料

主催 中條久美子・酒谷広重門下生

後援 (株)河合楽器製作所・(株)開進堂楽器

連絡先 中條久美子

☎〇七六七(二二) 一四二二

当館主催の催し

◇映画上映会(入場無料)アートホール

日時 10月9日・23日 午後2時

タイトル 「利休の茶」(47分)

内容 等伯と親交のあった千利休の「人」と「茶の湯」について語った映画です。

現在残されているゆかりの茶室、露地、貴重な茶道具等が映像で紹介されており、それらからは利休の美意識と高い精神性が感じ取れます。

茶の湯、茶道具、焼き物に興味のある方もお楽しみ頂けます。

「長谷川等伯展」

10月24日(日)まで開催中です。

「北大路魯山人展」特別講演会報告

講師 嶋崎 丞 (当館館長)



◆はじめに

北大路魯山人は石川県にとって大変ゆかりの深い存在であり、非常に著名な作家ですから、これまで多くの方が本などで書いておられます。しかしその評価は大きく分かれており厳しい意見も多のですが、美術工芸の幅広い分野で見事な才能を発揮した作家であるという事は間違いないと思います。魯山人はその生涯に多くの人々と出会いましたが、中でも魯山人を世に送り出したと言える細野燕台の存在は特に重要だといえます。

◆数寄者・細野燕台

私が美術館に勤務して間もない若い頃、何度か細野燕台をお見かけしましたが、この世界にはこの様な凄い人物がいて、これからこういう人物を相手に仕事をしなければならぬのか、と不安を感じる程大きな存在でした。

燕台の家はかつては金沢の藩政時代からの油商でした。しかし明治時代以降、油商ではやっつけず燕台の父親の代に酒屋に転向します。父親は漢学者で陽明学にも造詣が深く、人々に漢学を指導する程の学識豊かな人でしたので、燕台にも漢学を学ばせました。ですから燕台も中国に対する深い知識を持ち、漢学者、文人として高名でした。やがて燕台は税金の事で税務署ともめ、酒屋を

辞めてしまいます。その後は一応は中国雜貨商を営んでいましたが、他にも加賀友禪の宮崎友禪斎の墓を発見した関係で、加賀友禪の販売促進に力を入れていた三越の美術顧問も勤めていた様です。とにかく何処からか見事に収入を得て、優雅な世界で遊んでおられる方であつたそうです。

◆魯山人との出会い

魯山人は三十歳頃より、京都の富豪内貴清兵衛などの文化的生活を嗜む経済人などの所に入出入りしながら、料理や美術品などに触れたといえます。そして大正四年(一九一五)には食客として北陸を行脚、各地の数寄者を巡り、食を楽しみつつ地域の文化的教養を身に付けていきます。

やがて夏頃、福井県武生の文人窪田卜了軒より同じ数寄者仲間の燕台を紹介されました。その事が燕台と魯山人の出会いの契機になり、間もなく彼は燕台を訪ねて金沢へ行き、食客として居候します。燕台は魯山人の看板制作の評判を下了軒より聞いていましたので、しばらくして自分の家の看板を彫らせました。そして出来上がった看板「堂々堂」は実際に大変見事な出来で、燕台は看板をいろんな人に見せて自慢したといわれます。

◆魯山人の山代・金沢滞在

金沢ではそんなに看板の注文がありませんでしたので、燕台は加賀の山代温泉で旅館の看板を彫らせる事を思い付きます。山代温泉「吉野屋」当主・吉野治郎の斡旋によつて「吉野屋」別館に逗留させました。吉野治郎は旅館をやりながら別荘で茶の湯や古美術収集などの悠々三昧の生活を送っている人で、燕台とは数寄者仲間でしたから、彼に魯山人を預けたんですね。

魯山人の看板は大変に評判になり、山代中から看板制作の依頼が続いたんですが、魯山人は傲慢な性格でしたから、果してうまく人付き合いをや

っているか燕台は大変心配します。そこで度々山代へ様子を見に行つたそうですが、その時は近江町で買ったコノワタやズワイガニなどを土産に持って行きました。そして夜にはそれらを酒の肴に懇談となるのですが、その時魯山人がコノワタは最高の酒の肴である、と絶賛したそうです。

それから魯山人は山代の九谷作家・須田菁華の店の看板を制作しています。実は初代須田菁華と燕台は昵懇で、燕台家の食器は燕台自らが染付で文様を描き、菁華窯で焼いたものを使用していました。それを聞いた魯山人は感嘆し、是非自分も焼物をやりたいと言つて実際に上絵を試みるのですが、菁華はそれを見てこれは只者ではないと思つたと言われます。この須田菁華と魯山人との出会いが「魯山人陶芸」の出発点になつたのであり、その斡旋をした燕台が非常に重要な役割を果たしたと言えるのではないかと思います。

やがて魯山人は金沢へ戻りますが、ある時料亭「山乃尾」で北陸の旬の材料を用いた料理や接待などの「嗜み」を習いたいと言ひ出します。「山乃尾」は当時太田多吉が主人で、茶会席で高名な料亭でしたが、燕台は魯山人を太田に会わせようとしませんでした。それは細やかな性格の太田と傲慢な魯山人とは合う筈がないという理由からでしたが、結局魯山人は燕台と昵懇の芸子さんを通じて「山乃尾」に頼み込み、太田に会つてしまいました。燕台は心中穏やかではなく「山乃尾」に行つてみれば、意外にも二人は大変意気投合し、北陸の食材として著名なバイ貝などの話題で盛り上がりつつあったとの事です。その太田多吉との交流を通じて魯山人は料理についての多くを学んだんですね。

◆魯山人の活躍と燕台

大正六年、魯山人は中村竹四郎と共に東京で「大雅堂芸術店(後の美術店)」を開きます。そし

その二階で会員制の料理店「美食倶楽部」を始めますが、そこでは古陶磁を器として料理を出すという高級趣向が大変に受けました。魯山人が北陸で身に付けた料理や接待の方法がここで大変役に立っているんですね。

しかし「美食倶楽部」も人気が出てくると現存の食器だけでは数不足で、新たな食器の必要性から、いよいよ魯山人は自分自身で食器を作ろうと考え、菁華窯などに依頼して本格的な食器生産を始めますが、関東大震災によって全てを失ってしまいました。そこで今度は赤坂に高級レストラン「星岡茶寮」をオープンさせ、北鎌倉に広大な「星岡窯」を築き自前で食器を生産しますが、新たな陶工を確保する必要が生じました。そこで燕台に依頼して金沢・中村梅山窯の松島小太郎や菁華窯の山本仙太郎などを引き抜いてもらいます。これらの陶工達の援助もあり、「星岡窯」は盛大にスタートしましたが、一方で梅山窯や菁華窯ではその為に変に困窮し、燕台はかなり恨まれた様です。それから昭和二年（一九二七）、京都・宮永東山窯の荒川豊蔵を主任陶工として「星岡窯」に呼びますが、この事にも燕台が尽力しているとの事です。

「星岡茶寮」や食器生産が成功すると魯山人は燕台に鎌倉へ来る様に誘います。燕台は随分迷いましたが、昭和三年に鎌倉へ移りました。そして魯山人の相談役的存在として何かと仕事を手伝い、彼が発行していた雑誌「星岡」にも文章を度々寄稿しています。

さて「星岡茶寮」は隆盛を極めていましたが、やがて魯山人の放蕩経営が原因で大雅堂芸術店以来の盟友・中村竹四郎と決裂します。事は裁判沙汰にまで発展しますが、その後処理にも燕台は奔走しています。

「星岡茶寮」をクビになった魯山人を燕台は心配しますが、多くの後援者から焼物の注文を受け

て窯は再び活況を呈します。クビになった事によ

◆魯山人との別れ

さて魯山人を様々な面で支えてきた燕台でしたが、彼との決別の時が訪れます。ある日燕台の茶室に招かれた魯山人は、牛の水墨画が掛けられているのを目にし、その作品名が「黒牡丹」であるのを不思議に思い意味を尋ねました。燕台が丁寧に説明した所、魯山人はその内容が気に入らなかつたのか「何とくだらん話だ」と言つたそうです。すると燕台は「もう我慢の尾が切れた」と激怒し、家に帰って「堂々堂」の額から魯山人のサインの部分を取ってしまったといひます。これは大変有名な話で、それっきり燕台と魯山人は絶交状態になってしまいました。

その後は同じ鎌倉に住みながらお互いに交渉がなかつたんですが、いよいよ魯山人の死という時に、燕台は日本画家の伊東深水の仲立ちで会いに行きます。燕台はその時、「お前が死んだらわしの仕事はなくなってしまうではないか」という様な事をポツリと寂しげに言つたそうです。

◆最後に

魯山人は、短時間で相手の技や心までも見事に自分の芸術の世界へ昇華させる離れ業を持った、近年稀に見る作家でなかるうかなと思ひます。そして魯山人の作家としての大成は、細野燕台の存在無くして考えられなかつたと言えるでしょう。

※本文は平成十六年五月十六日に行われた「北大路魯山人展」特別講演会の内容を当館の責任においてまとめたものです。

子どもワークショップ報告

昨年に引き続き今年も小学生を対象にした「子どもアティスト誕生Ⅳ！今年の夏もねんどやねん！！」を開催しました。地元の作家との触れ合い、粘土の素材感と立体造形の楽しさを体験してもらおう企画で、夏休みの宿題にもピッタリ。

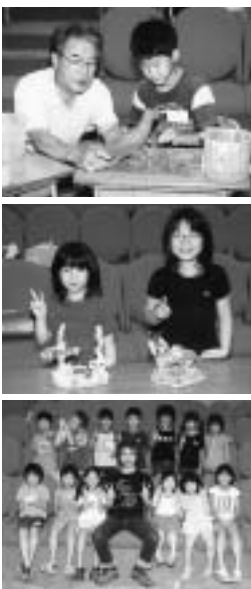
低学年は七月二十二・二十三日と二十九・三十日の二回二十七名が、吉田隆先生と、ふわふわ軽い紙粘土を使って仕上げに色を塗りました。高学年は七月二十七・二十八日に十三名が、渡部浩先生と茶色い土粘土をつかって制作しました。午前十時～午後三時まで、お昼ご飯をはさんでのワークショップに、合計四十名の小学生が参加してくれました。

デッサンを描いた後で実際に粘土をこね、形を作り始めると、普段見慣れているはずの動物や昆虫の手足が、どこから生えているのかわからなくなり、あちこちで不思議な生物が誕生していましたが、そこは粘土の良い所。何度もうり直しができるので心配ありません。後で、きちんと図鑑を調べて生き物の体の構造をじっくり観察しました。

また、会場には講師の先生方の作品を始めとする彫刻作品を展示しました。間近に、じっくり鑑賞した子どもたちは、「スゴい」「本当に先生が作ったの？」など反応も上々。

「観察→制作」「鑑賞→制作」のプロセスを踏むことで、子どもたちの彫刻作品を鑑賞する目を養うことができたのではないかと思います。

参加された皆さん、作品は大事に飾ってありますか？





これからの展覧会予定



平成17年2月26日(土)～4月10日(日) (月曜休館)

◆第1展示室

「春の名品展」

～人間国宝を中心に～

「人間国宝」は重要無形文化財保持者といい、芸能や工芸などで優れた技を高度に体得している人物に対して認定されます。本展では当館所蔵品より人間国宝の作品を展示、それぞれの分野での卓越した「技」を紹介予定です。



「千鳥蒔絵香合」 松田権六

◆第2展示室

「石川県ゆかりの作家たち」

今回で4回目となる「石川県ゆかりの作家たち」展は、若手から巨匠に至るまで県内外で活躍する様々なジャンルの作家を幅広く紹介する展覧会です。

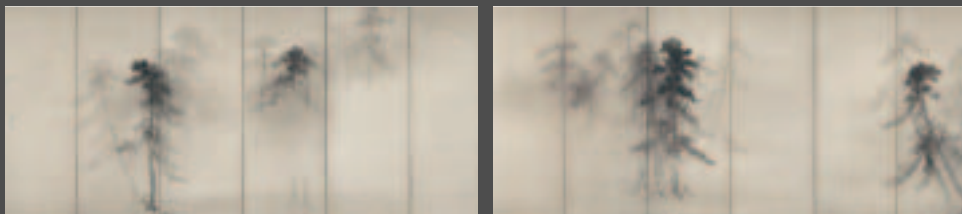
「長谷川等伯展～国宝・松林図屏風～」

平成17年4月25日(月)～5月8日(日) (会期中無休)

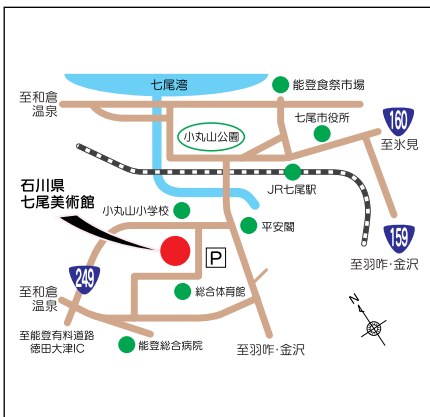
当館では、桃山時代に京都で活躍した画家・長谷川等伯の郷里にある美術館として、平成8年度より毎年「長谷川等伯シリーズ展」を開催してきました。

今年10月には3町と合併し新「七尾市」となり、当館も来春には開館10周年を迎え、このシリーズ展も10回目となります。その記念の年に、わが国水墨画の最高峰といわれる等伯の代表作、国宝「松林図屏風」を展覧します。

描かれた松林は、強風に耐えて細く立ちすくむ能登の松林にあまりにも似ています。14日間だけの特別公開です。等伯の心象風景、原風景ともいわれる「松林図屏風」を、是非この等伯の郷里七尾をご覧ください！



国宝「松林図屏風」長谷川等伯 6曲1双 東京国立博物館蔵



交通案内

飛行機……能登空港より能登有料道路利用約45分

車……金沢より能登有料道路利用約1時間20分

タクシー……JR七尾駅より約5分

徒歩……JR七尾駅より約20分

市内循環バス……JR七尾駅より西回りに(まりん号) 乗車約6分

休館日のお知らせ

(10月～12月)

- ◆10月 25～30
- ◆11月 4
- ◆12月 6～9、13、20、24
- 年末年始 12/27～1/3

◎次号・第40号(冬号)は1月4日発行予定です。